

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



★[SDGs(エスディーゼーズ)]

「Sustainable Development Goals(サステイナブル デベロップメント ゴールズ=持続可能な開発目標)」の略で、2015年に国連に加盟する193カ国が合意した17の目標、169のターゲットのことで、途上国を中心とした貧困など社会課題の解決のみならず、気候変動などの先進国・途上国共通の社会課題の解決について、2030年までに達成すべき目標が設定されています。達成するためには政府・国際機関・民間企業・NGO・学術機関・市民等、様々な関係者との連携が必要となります。

SDGs教育に注力、内閣官房長官賞受賞 目標達成に貢献する次世代リーダー育成



SDGsの普及を目指す学生で構成する「SDGs Global Youth Innovators」のメンバー

国連が掲げる持続可能な開発目標「SDGs」。金沢工業大学は学部・学科を超えた全学体制で目標達成に貢献しています。その取り組みは高く評価され、昨年12月に内閣府などが実施したジャパンSDGsアワードで最高賞に次ぐ内閣官房長官賞を受賞しています。「日本のSDGs教育推進大学」金沢工大の取り組みを紹介いたします。

ジャパンSDGsアワードでは、SDGsを学ぶ通常のカリキュラムを実施し、次世代リーダーを育成していることが評価され、首相官邸で開かれた表彰式では菅義偉内閣官房長官から表彰状が授与されました。

SDGsでは17の目標が設定されています。その目標達成に関係したプロジェクトが、学内の研究室や学生主体の課外活動などで400以上進められており、学生・教職員が一体となって目標達成に向けて活動しています。

例えば「人や国の不平等をなくそう」という項目に対し、金沢工大では障害者スポーツ支援のため

SDGsを推進する狙いについて、平本督太郎SDGs推進センター長は「地球規模の課題解決に貢献できる次世代リーダーの育成」と話します。

平本センター長によると、グローバル化の進展に伴い、世界各地で種々の問題が表面化しており、その解決方法を見つけて実践できるリーダーが求められているといえます。SDGs教育を通じて問題発見から解決までのプロセスを学ぶとともに、イノベーションを創出できる人材育成につながると指摘します。

PD教育で解決策探る

金沢工大では、学生が研究成果を問題解決に応用できる能力を習得できるように、全学生必修の独自カリキュラムであるプロジェクトデザイン教育(PD教育)を取り入れています。

PD教育では、1、2年次に学内や地元自治体の抱える課題を対象に問題発見から解決に至る過程・方法をチームで実践しながら学びます。3年次以降は自らが強い関心を持つ課題に対して解決策を求めます。経営情報学科では3年次に他学科の学生も受講可能なSDGsに特化した通年カリキュ

の機器・装置の開発に取り組みむか、野々市市在住の外国人向けに市内医療機関マップなどを紹介する英語版アプリの開発などを手がけています。



金沢工大で行われているSDGsの取り組みをまとめた「K.I.T. SDGs Report」



SDGs推進センターの平本督太郎センター長

ラムを設置しており、SDGsのニーズに応じて学内の研究を結びつけ、イノベーションの創出につながることを目指します。

今年3月には全日空と「ANNAアバター」を用いたSDGs教育を連携して実施する覚書を締結しました。

ANNAアバターは物を触ったときの感覚を擬似的に伝える技術などを使い、離れた場所にながらそこに存在しているようにコミュニケーションや作業ができるもので、金沢工大ではANNAアバターを用いた授業やフィールドワーク、シンポジウムの開催などを予定しています。

サミット開催で交流深め

プロジェクトの拠点となるのがSDGs推進センターです。

推進センターでは学内で行われている研究がSDGsにどう関係するかを見極め、政府や自治体

SDGsを推進する

多彩な取り組み



インド研修ではインドが抱える問題の解決策を探りました

このほか、SGYIプロジェクトではキャンパス内にあるコミュニケーションFM局「えふえむ・エヌ・ワン」でSDGsに特化した番組を学生たちによって制作し、隔週土曜日夜8時から1時間番組として放送しています。

SDGsの目標であるグローバルパートナーシップの活性化に向け、インド研修を今年2回実施しました。初回はインドが抱える問題を発見し、その解決策をインド企業にプレゼンしました。インド滞在が1か月以上に及んだ2回目では英会話研修をした上で現地I

T企業へのインターンシップを行いました。研修に参加した菅井慎吾さん（航空システム工学科3年）は「現地ではインド人学生とほくたちが作ったカードゲームを使ってワークショップをやりました。金沢工大で始めたプロジェクトを世界に広げたい」と目を輝かせます。



SDGsプロジェクトとして着物の販促イベントを手掛けています

SDGsでは「地域の文化・産品の販促につながる政策の立案、実施」がターゲットとして定められています。そこで、金沢市の着物レンタル業「彩雅」の販促活動にも取り組んでいます。現在は若者向けのホームページを作成し、学生を対象とした着付け教室を企画しています。「経営とITを学ばばくちならではの強みを生かした販促を行いたい」とプロジェクトの青木啓人さん（経営情報学科3年）は意気込みます。



コマニーの要望を元にボードゲームを製作しました

インド研修で 地元企業にプレゼン

また、世界を対象にした「英語版」も開発中です。野村毅さん（航空システム工学科3年）は「英語版によって世界の人々が別の国のことに興味を持つきっかけになるはず」とその意義を話してくれました。

一連のカードゲーム開発の資金はインターネットを通して出資者を募るクラウドファンディングを実施しました。当初の目標の100万円はすぐに突破し、現在は目標額を300万円に上げて資金を集めています。

企業と連携して 学生目線で課題解決

プロジェクトでは企業との連携も進めています。コマニー（小松市）の「自然災害が起きた際、避難所で安心、快適に過ごせる間仕切りを開発したい」という要望を受けて、課題解決に向けたアイデアを出し合うボードゲームを手掛けました。



カードゲーム「X」を開発したSGYIのメンバー

「SDGsの認知度は企業や自治体では向上しているものの、若者への浸透はまだです。そこで、楽しみながらSDGsの理解を深められるカードゲーム「X（クロス）」を製作しました（SGYIプロジェクト代表の島田高行さん（経営情報学科3年）。ゲームに使うカードは2種類あり、一方は「AI技術の普及により失業者が増えた」といった社会的な課題が書かれ、もう一方はその課題を解決するために活用可能な技術や製品、サービスなどの資源が記されています。ゲームではチームに分かれ、カードを組み合わせて課題の解決策を出していきます。

プロジェクトではこのカードゲームをスマートフォンでも遊べるように「アプリ版」を開発し、11月中に無料リリースします。制作を担当した櫻井湧太さん（情報工学

より噛み砕いた内容の「小学生版」の作成も進行中です。開発にあたる徳野亮さん（経営情報学科3年）は「イノベーションを起こす変革力を養うことができるこのゲームは、より柔軟な発想力のある小学生にこそ楽しんでほしい」と話します。

SGYIプロジェクトは未来を担う若者世代から、社会をより良くするためのアクションが生まれ、いくことを目指してスタートしました。「SDGsの認知度は企業や自治体では向上しているものの、若者への浸透はまだです。そこで、楽しみながらSDGsの理解を深められるカードゲーム「X（クロス）」を製作しました（SGYIプロジェクト代表の島田高行さん（経営情報学科3年）。ゲームに使うカードは2種類あり、一方は「AI技術の普及により失業者が増えた」といった社会的な課題が書かれ、もう一方はその課題を解決するために活用可能な技術や製品、サービスなどの資源が記されています。ゲームではチームに分かれ、カードを組み合わせて課題の解決策を出していきます。

今年6月から19回にわたって「X」を使ったワークショップを開催し、外国人や中高生らが参加しています。

プロジェクト副代表の亀田樹さん（経営情報学科3年）は「X」の強みを語ります。「難しく、重い社会課題でもゲームという身近な切り口から考えるのが「X」の特徴です。ゲームを通してアイデア創出のノウハウを身につけられるため、日常的な課題解決の方法を考える際にも応用できます」



SGYIが開発したスマホアプリ版「X」

SDGsの理解促す カードゲームを作成

SDGsに特化した教育カリキュラムを受講した学生で構成される金沢工大の学生プロジェクト「SDGs Global Youth Innovators」(SGYI)では、学生自らが考案、実施している様々な取り組みがあります。

今年10月には「第1回ジャパンSDGsサミット」を開催し、

プロジェクトデザイン教育を導入し、研究の社会活用を重視した教育を行うなど、SDGsの理念に極めて近い取り組みを行ってききました。「そういった歩みがあったからこそ、SDGsプロジェクトをい

ち早く立ち上げることができ、日本を代表するSDGsの教育機関として認められたのです（平本センター長）
続いて、SDGsの具体的な取り組みを紹介します。